

# 厚生文教委員会報告書

平成29年9月21日

備前市議会議長 鵜川晃匠 殿

委員長 掛谷 繁

平成29年9月21日に委員会を開催し、次のとおり議決したので議事録を添えて報告する。

## 記

### <所管事務調査>

- 第2次備前市総合計画（後期計画）について
- 小・中学校における不登校の状況について
- 学校給食（共同調理場民間委託・残滓・備前焼食器使用状況等）について
- 小・中学校給食費補助について
- 片上高等学校における通信教育制度の導入について
- 教育用タブレットの活用について
- サタスタびぜんについて

### <報告事項>

- 平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の概要について（学校教育課）
- 平成30年度、31年度使用の小学校教科用図書「道徳」の採択について（学校教育課）
- 備前中学校区の小中一貫校について（小中一貫教育推進課）

○ 閉会中の委員派遣について



《 委員会記録目次 》

|              |    |
|--------------|----|
| 招集日時・出席委員等   | 1  |
| 開会           | 2  |
| 報告事項         | 2  |
| 所管事務調査       | 12 |
| 閉会中の委員派遣について | 25 |
| 閉会           | 26 |



## 厚生文教委員会記録

|       |               |                |            |       |
|-------|---------------|----------------|------------|-------|
| 招集日時  | 平成29年9月21日（木） | 午前9時30分        |            |       |
| 開議・閉議 | 午前9時30分       | 開会 ～           | 午前11時35分   | 閉会    |
| 場所・形態 | 委員会室A・B       | 会期中(第4回定例会)の開催 |            |       |
| 出席委員  | 委員長           | 掛谷 繁           | 副委員長       | 山本 成  |
|       | 委員            | 橋本逸夫           |            | 田口健作  |
|       |               | 立川 茂           |            | 西上徳一  |
|       |               | 星野和也           |            |       |
| 欠席委員  |               | なし             |            |       |
| 遅参委員  |               | なし             |            |       |
| 早退委員  |               | なし             |            |       |
| 列席者等  | 議長            | 鶴川晃匠           |            |       |
|       | 委員外議員         | なし             |            |       |
|       | 紹介議員          | なし             |            |       |
|       | 参考人           | なし             |            |       |
| 説明員   | 教育長           | 杉浦俊太郎          | 教育部長       | 川口貴大  |
|       | 教育総務課長        | 大岩伸喜           | 小中一貫教育推進課長 | 眞野なぎさ |
|       | 学校教育課長        | 岡部高弘           | 幼児教育課長     | 波多野靖成 |
|       | 生涯学習課長        | 高橋清隆           |            |       |
| 傍聴者   | 議員            | 尾川直行           | 石原和人       | 森本洋子  |
|       | 報道関係          | なし             |            |       |
|       | 一般傍聴          | あり             |            |       |
| 審査記録  | 次のとおり         |                |            |       |

## 午前9時30分 開会

○掛谷委員長 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席は7名です。定足数に達しておりますので、これより厚生文教委員会を開会します。

本日の委員会は、教育部関係の議案の審査はありませんので、お手元のレジュメに記載のとおり、まず報告事項をお受けした後、所管事務調査を行います。

その所管事務に入る前に、総合計画の後期計画についての皆さんの御意見をいただきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。

### \*\*\*\*\* 報告事項 \*\*\*\*\*

早速でありますけれども、これより報告を願います。

○岡部学校教育課長 2点報告いたします。

1点目は、平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の概要についてでございます。

この件は、既に新聞等で報道をされておりますし、先日の一般質問においても、取り上げていただいたものでございます。

1ページ目から順次要点のみ説明をいたします。

この調査は、4月18日に実施されました。備前市では、小学校6年生が198人、中学校3年生が252人受検をいたしました。

学力調査の結果の概要ですが、平均正答率については、本年度から国から提供されたデータが県及び市については整数での提供となっております。児童・生徒は、国語と算数、または数学の知識問題と活用問題の4種類を受検しております。表の一番左、2教科平均は、4種類の平均正答率を合計して4で割った数字となっております。2教科平均では、小・中学校ともに全国及び岡山県の平均正答率をわずかですが、上回っていました。

教科別で見ると、算数、数学については、小・中学校とも全国及び岡山県の平均正答率を上回っておりました。国語については、小学校で知識に、中学校で活用に課題が見られました。

2ページ目をごらんください。

参考①には、これまでの全国学力・学習状況調査の結果を掲載しております。

参考②は、現在の中学校3年生が平成26年度、小学校6年生のときに全国学力調査に参加したときの結果と今回の結果を全国の平均正答率をベースに経年比較したものです。

参考③は、平成27年度、中学校1年生のときに岡山県学力調査に参加したときの結果と今回の結果を、岡山県の平均正答率をベースに経年比較したものです。どちらの表からも、生徒が着実に力をつけていると考えられます。

3ページ目以降に、学習状況調査の主な項目を掲載しています。

家庭学習については、学校の授業時間以外にふだん1時間以上家庭で勉強する割合が、小学校では全国を約9ポイント上回っておりました。中学校では、全国とほぼ同じ状況でした。

また、学校が休みの日に1時間以上家庭で勉強する割合は、小学校では全国及び岡山県を約6ポイント下回っておりました。中学校では、全国を約3ポイント上回っておりました。

一方、テレビやゲームなどの娯楽について、ふだん1時間以上テレビ等を見る割合は、小・中学校ともに全国及び岡山県を上回っておりました。

また、ふだん1時間以上ゲームをする割合は、小学校では全国を約2ポイント下回っておりました。中学校では、約4ポイント上回っておりました。

規範意識については、学校の決まりを守っていると肯定的に回答した割合が、小・中学校ともに全国を約3ポイント上回っておりました。

将来の夢や目標を持っているを肯定的に回答した割合は、小学校では全国を約2ポイント下回っておりました。中学校では、全国を約3ポイント上回っておりました。

結果については、今後さらに分析を進めて、9月中にはホームページで公開する予定にしております。

続いて、平成30年、31年度使用小学校教科用図書「道徳」の採択について報告をいたします。

お手元の資料をごらんください。

平成30年度から31年度の2年間、備前市の小学校で使用する特別の教科道徳の教科用図書を教育委員会で採択いたしましたので、報告します。

文部科学省では、これまでの道徳の時間を特別の教科として位置づけ、答えが一つでない課題を一人一人の児童・生徒が道徳的な問題と捉え、向き合う、考える道徳、議論する道徳へと転換を図り、児童・生徒の道徳性を育むとしております。教科化されたことで、検定教科書の導入が必要となったものです。

1ページ目から3ページ目については、採択結果の公表に当たって教育長のメッセージをつけております。

4ページ目については、選定委員の名簿を載せております。

5ページ目以降が採択についての具体になります。

発行者については、光村を採択いたしました。

採択理由は、その表にあるとおりでございます。

5ページ目から7ページにかけては、選定委員会での議事の内容について掲載をしております。

最後、8ページについては、その選定委員会を受けて教育委員会会議での協議の内容について載せております。

**○掛谷委員長** 結構中身が濃いようなことですが、皆さんからの御質疑、御質問があれば挙手にて承ります。

**○橋本委員** 先ほど、平成29年度の全国学力・学習状況調査結果について課長から報告がござ

いましたが、その中でアンケート調査の結果は、これは細部にわたってはまだ今後精査してこれから報告するというのですが、先ほどの報告の中で1つ気になったことが、家庭での学習にかかわることですが、家で1時間以上ゲームをする割合が小学校では全国平均を約2ポイント下回って、逆に今度中学校になると4ポイント上回っていると、これは、小学生はいいけれども、中学生はめちゃくちゃじゃあなあというふうに、我々これを見たら判定できるが、教育長、そこら辺どう思われますか。

○杉浦教育長 やはりまだまだ家庭への意識啓発という、我々のアクションが足りないのかあと、そこは率直に反省しなければいけないというふうに思います。これから、まだまだ前向きにどんどん取り組んでいかないといけないという決意を新たにしているところです。

○橋本委員 もう一点が、小学校の6年生と中学校の3年生、前市長は、県下でどちらも5番以内を目指すと言われました、一時期。県内での順位、ここには出てないが、以前のひどい状況、つまり赤磐市が悪いか備前市が悪いかというぐらいの、県下で一番下のほうを争った状況を脱して、かなりよくなっては来ておると、私も認識しとんどすけれども。今、県内でどれぐらいの位置にあるのか、この備前市が。それは、教育委員会のほうでは把握できとんどしょうか。

○杉浦教育長 当然のことながら把握をしております。

○橋本委員 大体どれぐらいですか、教えていただけません、県下で、小・中学校。

○杉浦教育長 もう前市長の目標を上回る位置にあります。

○橋本委員 どちらも5位以内ということでよろしいですか。

○杉浦教育長 はい。

○掛谷委員長 ほかには、どうですか。

○田口委員 私も任期がもう半年ほどしかないから、最初に言わせていただきますが、もう前々から気になつとんどすけど、私はもう個人的には、教育長、申しわけないけど、こういうものに一喜一憂するべきでないということですね。いいますのが、最近公務員にしても学校の先生にしても、新規で就職される、そういった方が鬱になって出勤できないという数がだんだんふえていくじゃないですか。勉強も勉強で確かに必要だし、ただ勉強というのは人に言われてするものじゃないし、しなかったら将来自分が困ることはいっぱいあるという、そういう精神論からを教えるべきであって、ついとってこういう資料をつくるのに、担当がもう何十時間を、何百時間を、私は費やす場合じゃないと思う。困るのは本人ですから。もうその辺はやっぱり自覚させるのが先で、もっとやっぱり社会に出てたくましく生きられる人間を、私はつくってほしいと思います。回答があればいただきますし、なければいいですし、皆さんがされている、努力は私も認めます、学校も含めて、頑張っているというのは目にも見えます、はい。

○杉浦教育長 私、田口委員と全く同感であり、だからこそこういう目先の数字だけではなく、今度改訂される学習指導要領も本当に課題解決能力、生きる力を養うということで、「学力一辺倒からの脱却」ということが大きなテーマになっておりますので、私、来たときから学力だけで



はないと現場にも申し上げてきたわけですが、やはり新しい時代を生き抜いていく力をつけると、それからふるさとを思う心、そういったものも根づかせていくという方針で続けてやっていきたいと思います。

○掛谷委員長 ほかに、どうですか。

○橋本委員 教科書の選定のことでお尋ねをします。

備前市が単独でこの教科書を選定するようになってからも何年がたちますかねえ。このたび道徳の教科書をこういうふうに変えましたという詳しい報告が出ているが、もうはっきり言うて私いつまでこれは備前市単独でやるのかなあと。大勢の方にお手を煩わせて道徳の教科書を選定するのに、道徳の教科書ですから、どこの出版社もそんなに悪いこと書いとらんし、大勢に大きく差がないと思います。そしたら、私、備前市だけで単独でいつまでもこの教科書を選定するのが、果たしていいものだろうかという疑問を持ったりします。備前市単独でやるようになったときも、かなり疑問に感じとったんですが、備前市だけがこの近隣から、あそこは勝手なところじゃというふうに思われりゃあせんかなと思うて、人の目も気になるが、教育委員会のほうでは、これはどういうふうに変えていますか、いつまでもこのままずっと突っ走るということですか。

○杉浦教育長 私も一旦は委員と同じような見解で、周辺の旭東地区、復帰に向けて働きかけをいたしました。結果からいうと、当面難しいだろうということ。やはり脱退の経緯がかなり、若干私自身の反省も含めて、押しとどめられなかった経緯があります。県からも、実は備前市単独で十分できるというお墨つきがそのとき与えられており、それで戻るといのはちょっと虫がよ過ぎると、正直なところ。今後も、やはり共同研究という形のほうが教員の働き方改革にも資する面がありますので、働きかけは続けてまいります。現実問題かなり難しいのではないかと認識です。

○橋本委員 今、凶らずも教育長から前市長のときの脱退に至る経緯についてかなり強引であったとかというようなお言葉を聞いたが、私は今の市長の、体制も変わりましたので、これを契機にやっぱり近隣と共同歩調をとりたいんだということ熱心に説かれて、もう一度復帰させてほしいということで、みんなでよりよい教科書を選ぶという、旭東地区のそういった方向に、私は進んでいきたいと思っておりますので、ぜひよろしく願いをいたします。これは、もう答弁は結構です。要りません。

○掛谷委員長 ほかにあれば、どうぞ。

○田口委員 今、教科書選定の話が出たが、ただ私、教育長、納得いかないのが、前市長がお怒りになった伊勢崎淳氏の載っている教科書をそのときに備前市の委員が選ばなかったということのほうが、私は問題だと思いましたが、あれ見せていただいて。普通なら選ぶでしょう、多分ね。あとはもう独自で選定するんだから、それはそれでいいとしても、最低でも私は岡山県の郷土は学んでほしいけど、兵庫県の郷土を学ぶ必要はないと。それを選択したのは、私はそのときのそ

れが間違いであって、トラブルの発端だと私は思っていますが、その辺どう思われますか。

○杉浦教育長 全く同感であります。そういう協議会という場があるわけですから、その場できちんと主張をすべきだというふうに思います。

ちなみに、蛇足になるかもしれませんが、今回の道徳の教科書、備前市で選択した教科書には、岡山県発祥のその点字ブロックであるとか、まさに委員地元のアマモ再生、これが取り上げられておりますが、旭東地区が選んだ教科書は別の教科書でした。そのことだけちょっとつけ加えておきます。

○田口委員 点字ブロック、何か最初にできたのが岡山市の原尾島付近だとか何か、そういう話も聞いたりしていますが、やっぱりそういう郷土の、みんなあれすごい力ですよ、目にそんなに目立たないにしても。だから、そういうのを我々の先輩の人たちがこうこうしたんですよということは、そういういいことは長くやっぱりつながっていくように、教えるべきだと、私も思いますし、異論はございません、はい、頑張ってください。

○杉浦教育長 はい。

○掛谷委員長 ほかに、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

学校教育課の報告事項は終わりたいと思います。

続いて、小中一貫教育の推進についてお願いします。

○眞野小中一貫教育推進課長 備前中学校区の小中一貫校についてでございますが、備前市小中一貫教育基本計画の中で、中学校と同一地区内の伊部小学校については、施設一体型を目指してモデル校とし、施設調査・整備を検討することとしております。このため、平成28年度予算において、伊部小学校と備前中学校を一体化する施設整備計画策定業務を業者に委託しました。業者から上がってきた提案がお配りしたA3のカラーの4案でございます。

第1案は、東側敷地に施設を集約し、西側敷地をグラウンドとして広く利用する案で、東側敷地へ小学校舎、小学校体育館、プールを新設するものでございます。

概算工事費は21億6,825万円でございます。

第2案は、既存中学校体育館の解体後に小学校校舎を新設、小・中学校兼用の体育館、プールを西側敷地に新設、中学校用のランチルームを既存の柔剣道場に転用するものでございます。

第2案の概算工事費は24億4,575万円となっております。

第3案は、東側敷地に施設を集約し、小学校舎、プールを新設、西側敷地をグラウンドとして広く利用、既存中学校体育館は小・中学校で供用とするものでございます。こちらの案の概算工事費は16億7,475万円。

第4案は、西側敷地に小・中学校兼用の体育館、プールを新設、東側敷地に小学校舎を新設、中学校用ランチルームを既存の柔剣道場に転用するものでございます。

概算工事費は35億6,475万円となっております。

この4案とも、現在の中学校プールを解体しながらリフラクトリーブーズの敷地を取得することを予定として作成したもので、その費用については含まれておりません。

児童・生徒の安全の確保と校舎の日当たりを重視した配置案となっております。

この設計案等をもとに、備前中学校区の小中一貫校の形態については、9月教育委員会定例会で協議していく予定でございます。

**○掛谷委員長** 皆さん方からの御質疑、質問をお聞きします。

**○田口委員** 課長、この提案を受ける前に、出した条件というものがあると思うが、表か何かで簡条書きでもいいから出してもらえないですか。

**○眞野小中一貫教育推進課長** 基本構想として、児童・生徒が快適な学習環境で充実した教育を受けのために、小・中の校舎を一体型にすると、それから小・中学校の教職員が身近な環境で情報を共有できる環境を整備する、それから整備に当たっては既存中学校施設の計画的な整備・改修を行い、安全で安心な教育環境を保持しながらコスト面への配慮も視野に入れるというようなことが書かれてあります。

**○田口委員** 2案は別にしても、残りはほとんどグラウンドがないじゃないですか。例えば、今でも放課後、備前中の横を通ったら、休みも含めて野球なりテニスなり、結構部活もされていますよ。この案だったら、200メートルのトラックはここへ残っていますが、都会の千代田区の小・中学校じゃないわけだから、こんなものを提案させたと思うて、私は論外じゃと思うんですよ。

**○眞野小中一貫教育推進課長** 左側のあいたスペースが運動場になる予定でございました。

**○田口委員** ああ、そういうことね。それならそういう説明も欲しいし、とりあえず本気でやろうとするなら、普通の人が見える大きさでやっぱり出してほしいですよ。あんたらが虫眼鏡持って資料見んのが悪いんだと言わんばかりの、これは字だと思う。とりあえず、私は読もうと思うたら読めますけど、この小さい字で、眼鏡かけずに。委員長、それはもうちょっと拡大の図面でも出してもらうて。

**○掛谷委員長** これではちょっと、そちらはわかってもこちら今受けてもなかなか字も見えないし、わかりづらいし、西側のところもようわからんので、やっぱり1案を1枚ずつ出してください、4枚。

それと、基本構想みたいなものがあれば、やっぱりちゃんと出していただきたいと思います。

**○橋本委員** 私、はっきり言うてすげえ案が出てきたなとびっくりしています。といたしますのが、私、この委員会に所属しとって、おまえがついてきてねえんが悪いんじゃないと言われるかもわかりませんが、もうこの備前中、伊部小、施設一体型ということで、ほぼもう決定をされておるんですか、教育委員会の方針は。まず、そのあたりから。

**○杉浦教育長** 全く決定しておりません。検討するというふうに基本計画にも記されていて、何せ10億円を超える、もう最大30億円というところで予算額ですから、そんな軽々に方針を決

められるはずがない。やはりそこを丁寧に議論するための一つの材料で、やっぱりこれだけかかんだったら無理だなあという議論も当然おありになるでしょうし、いやこれだけかける価値があるんだということを皆が納得していただければ、そちらの方向に進む、今、教育委員会の議論もここからスタートしようというところで準備をしているという、その準備の一つの素材にすぎないというふうに御理解ください。

**○橋本委員** よかった。私が一人おくれとんかなあ思うて、びっくりしとったが、いきなりこんな、どでかい数字のものがでてきて、もうこの4つの案で、さあどれでいくんならというような感じで出てきたような錯覚にとらわれたもので、先ほどの質問をしました。

今の伊部小学校は耐震補強等々の工事も恐らく済んで、まだかなり使える状況ではないかというふうに思えるが、それをあえて一体型を目指すということになると、もう今の伊部小学校がもうなくなってしまいうわけで、そこまで校舎等々が老朽化してひどい状況でしょうか。

**○杉浦教育長** 老朽化して傷んではおりますけれども、ひどい状況という認識はありません。

**○橋本委員** この施設一体型を目指すとなると、例えば備前中学校の学区は相当広範囲であります。西鶴山、東鶴山、香登、片上、そういったところまで含めて、ほかの小学校は、おまえら遠隔地にある小学校と、伊部地区だけの小学校をここに施設一体型にするのか、あるいはもうこれと軌を合わせて東鶴山の小学校も片上の小学校も皆ここへ来いというような格好にされようとしているのか、それはこれからの議論だろうと思いますが。こんなどどでかい計画を立てる以上、大きな基本計画がやっぱりあるべきと思う。もしこれをするならば、そうしたいんだというような、特別な思いはありますか。

**○杉浦教育長** そのあたりも現在ある基本計画に書き込んだつもりではありますが、本来のその教育効果からすると、もちろんこれは一体型のほうが効果はあるというふうなことは、これまで千数百校の実証でも裏づけがあるわけですが、一方でやはり伊部小だけを一体化させるということで、他の4校との格差というか、他の4校の子供たちが不利益をこうむることになるという格差については、きちんと検討して、100%メリット、デメリットというのは世の中ありませんが、そのメリット、デメリットを換算してどちらを選ぶかということは、慎重に議論しなければいけないことだろうというふうに考えています。

**○田口委員** 先ほど橋本委員のほかの小学校も含めてというふうに言われたんですけど。ここへ書かれとる図面出してもろとんのが、どういうことで条件に、何に入れて、小学校がどういうふうにしとんのですか、これはこの図面の中じゃ、載せてないけど。

**○眞野小中一貫教育推進課長** また、後日お配りする予定ですが、小学校の普通教室が12、支援学級が2、少人数教室が1、中学校の普通教室が10、支援教室が4。

**○田口委員** いやいや、課長、そんなこと言ようらへんが。ほかのところもひっくるめて入れるようにしとんのですかどうですかと言よん。そんな細かい数字はええんです。

**○眞野小中一貫教育推進課長** 失礼しました。とりあえず伊部小学校だけが一体化する予定でつ

くっていると思われます。

**○田口委員** それだったら、聞くだけにしときますけど、例えば西上委員もおられるが、例えば伊部小学校だけを一緒にしたら、そのほかのところとの小学校の教育格差、勉強の格差はできるにしても、例えば西鶴山、東鶴山からバスで通う、何で通うんかにしても、時間のロスだったり、いろいろなことが考えられるじゃないですか。僕は、もう地域の活力というのは、なあ西上委員、なくなってしまうわけだから、小学校がなくなるとね。そういうことを含めて、これは一遍考え直さないかんですね、市民さんを巻き込んで、と思います。

**○掛谷委員長** ほかに。

**○立川委員** いや、本当に私もこれ金額もお聞きして、方向性もお聞きしたが、もう一番気になったのが、課長の報告では、施設一体型が効果あると、教育長もおっしゃいました。モデル校にしたいというお話があったが、この非現実的な実現性がかなり薄いものを何でモデル校と位置づけられるのか。課長、教えてください。

**○眞野小中一貫教育推進課長** ほかの中学校区は、1小1中、日生は2小1中で、少しの小学校と中学校の小中一貫ですが、備前中学校区だけは5小1中であるということで、同一地区内の伊部小学校と備前中学校をとりあえず一体化して、ほかの小学校と小中一貫教育を進めるという意味でのモデル校ということだったと思います。

**○立川委員** 私の解釈がおかしいかもわかりませんが、モデル校といえ、小中一貫施設一体型、教育はこういう形ができるんですよ、こういう効果があるんですよということを皆さんにもお知らせすると言ったら何ですけど、子供たちもそれで頑張れる、地域の皆さんもそれで、あんなるほどそういうことかというのがモデル校という認識ですが、余りにも実現が非現実的なモデル校を出されたので、その辺のニュアンスが全く感じられなかったんですよ。むしろ先ほどおっしゃったように、吉永とか三石とか、本当に近くてできるじゃないですか、三石なんか特にもう壁1枚なので、そういうところから施設一体型、小中一貫校はこういうふうに進めていますよ、いい面はこうでしたよ、検討材料はこの辺にあるんですよということで、この備前中、5小学校あるでしょ、そういったところの皆さんの理解を得ていく、これが私モデル校の使い方だと思うが、課長、いかがですか。できそうなところから先に、じゃないですか。ちょっと私の考えは違うんでしょうか。その辺、教えてください。

**○杉浦教育長** おっしゃるとおりだと思います。ただ、ちょっと舌足らずなところはあったかもしれませんが。モデル校というのは、あくまで実現した場合にそのモデル校化することもあり得るなという考え方で、そもそもじゃあこれは非現実的だよという声が圧倒的に多ければ、やはり当然それがモデル校になることはありません。ですので、そのあたりも市民の皆さんのその感触もきちんと踏まえて、これから議論したいという、あくまでも議論の素材としてお示ししたこと御理解いただけないでしょうか。

**○立川委員** 本当にこれが実現すれば、すばらしいことになろうかなと思います。ほかの4小学

校、もうひっくるめた方向性を出されるのはいいと思うが、ただ本当に実現が薄いような気がしてしょうがないです。むしろこういう施設一体型の学校でこういう効果あるんですよというふうなモデルルーム的なものを出して、これも並行して議論していくという方向性のほうがいいように思うが、どこかほかに施設の一体型を考えられる気はありませんか、方向性として、いかがですか。

**○杉浦教育長** 現段階ではまだオーソライズされてない私個人の見解ですが、先行している伊里小・中、特に中学校は空き教室がたくさんあります。階段の高さとか、小学生にはなかなか難しいという問題はありますが、少なくとも検討する価値はある。それから、委員地元の三石に関しては、もう地理的な条件が整っているんで、そこに関しても検討の余地はあるというふうに考えております。

**○立川委員** 考えられることは、考えていただいているとは思いますが。ただ、並行して現実的に目に見えるものをやっぱり皆さんにお知らせしていくという方向性もいただけたらと思います。どうぞよろしくお願いします。

**○田口委員** 教育長、御存じないかもわかりませんが、備前市はもらうなという備前東高校をもらいました。新しくぴかぴかの中学校をお金1億2,000万円かけて小学校にしました。あれトータルで8億円ぐらいのお金を使っているんです。無駄なことしましたよ。小学校を新しく建てとったら、3億円、4億円で済んでいた話ですよ。それも含めて、やっぱりもうちょっと考えるべきで、そして先ほど階段の高さ言いましたよね。伊里中学校、小学校に階段直すのにお金をかけています、確かに。その後、すぐ名護の小中一貫校視察に行ったんですよ。ほんなら、実は小学校を建てて、中学校はもともとあって、という校長先生の話の中で、便利が悪いからもうもともとあった中学校を小学校の児童に入ってもらおうようにしたんですよ言われたから、すかさず私聞いたんです。いや、校長先生、階段の高さがどうのこうのいうて、文科省の基準があるじゃないですかと。どうしたんですか、それが、小学生が使えない高さじゃないじゃないですか。そんな話は論外です。全く関係ありません。そう言うて沖縄県は言われました。私は、同じ日本の文部科学省の管轄の範囲だというふうに理解しましたが。ああやっぱりこういう考えじゃないとうまいこといかなのんかなあという思いがしたので、ぜひそれも参考にしてください。答弁はいいです。

**○杉浦教育長** はい、わかりました。ありがとうございます。

**○西上委員** 私のところの東鶴山に数年前に看板がひどく並んだ経緯があるので、今すぐ廃校になるというのは、やはり苦しいので、小中一貫校は時期尚早と思うが、それより学区の問題があって、よそからでも、どこの小学校でも選べられるようなことはできないでしょうかというのが1点聞きたい。今でも久々井の方が東鶴山小学校に来たいけど、そういうことも聞くんですけど、これやったら東鶴山も人数がふえていいんじゃないのということも実際問題あるが、これも解消問題の一つとしていい施策と思うが、どう思われますでしょうか。

○杉浦教育長 学区については、さまざまハードルはありますが、今の学区で本当にその子供たちのためになっているかという検討は、これは絶対しなければいけない議論だと思っています。もちろん現存の素案を中学校区、5つだけではなくて、例えば小中一貫校化した学校をもう市内全区から通学できるようにするとか、恐らくモデル校化するというのは、そういうことも含まれるんじゃないかなあというふうに考えており、これからそれぞれの学区で特徴ある教育が進む中で、例えば伊里小中、伊里学園でもっと論語教育を強化するんですと、じゃあそういう学校に通わせたいんだという市内の他の地区のお子さんが通える状況にするとか、スクールバスの問題、その他、さまざまありますが、そういったことも含めて検討が必要なんではないかなというふうに考えております。

○西上委員 それはええですね、義務教育もやっぱり教育長言われるように、選べれるところで選べれる教育が受けられるというのは、僕もいいと思いますので、そういうことも検討していただきたいと思っております。よろしくをお願いします。

○掛谷委員長 いろいろ出ましたけども、私のほうからちょっと1点聞かせてほしいんですけど。

○山本副委員長 委員長かわります。

[委員長交代]

○掛谷委員長 次期教育委員会会議ですか、いわゆる一体型の今の施設整備のこの案が出ていることと、いわゆる分離型と大きくかじを切らないといけないと思うが、そのところはいつごろ結論を出していくというようなことを考えているのか、その辺のところを教えてくださいと思います。これが決まったわけでも何でもなし。

○杉浦教育長 次の教育委員会会議の議論の方向にもよると思いますが、もう賛否両論真つ二つということであれば、さらに丁寧に市民の皆さんの意見を聞く場を設けるとか、そういった対応も必要になってくると思いますし、それ次第ですが、いずれにしても結論的には、やはり今年度中ぐらいに方向性をつけないと、先々さまざまな支障が出てくるのかなというふうに思っております。

○掛谷委員長 今年度中ということは、一つは教育委員会がありましょうし、この議会もありましょうし、それから学校関係者もありましょうし、市民の声、それこそ地元の小学校の問題もありますから、多岐にわたっていろいろあると思うが、今年度中ということは、あと半年ほどありますから、3月中にはもう発表をするということでもいいと思いますが、どうでしょうか。

○杉浦教育長 申しわけありません。確約はできません。必要な議論が足りないのに、見切り発車でこれを強行することは避けたいと思っております。

○掛谷委員長 はい、わかりました、結構です。

○山本副委員長 委員長かわります。

[委員長交代]

○掛谷委員長 かわりました。

○田口委員 先ほど、うちの委員長の質問の中には出なかったが、私は一番この前一般質問でも教育長にちょっと要らんこと言いましたけど、お金の話だと、お金があり余ったたら、そりゃあしていきゃあええ話で、と思うんじゃないけど、それを抜きにやっぱりこれしますか、しませんかというて、私はできない話じゃないかというふうに思います。その辺も含めてやっぱり検討をしてください。よろしくお願いします。意見です。

○橋本委員 ちなみに、この4つの案を作成されたり、あるいは概算事業費がそれぞれかなりこれは微に入り細に入りの見積もりと思う、端数まで出ていますので。これに要した、これは外部委託しておるとは思います、その予算だけでも幾らぐらいになるのか、教えていただけたらと思う。

○眞野小中一貫教育推進課長 委託料として410万4,000円であります。

○掛谷委員長 よろしいでしょうか、この件については。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

小中一貫教育推進についての報告は終わりたいと思います。

\*\*\*\*\* 所管事務調査 \*\*\*\*\*

総合計画の後期計画について、教育委員会から計画の概要についてお話は、特段ないですか。なければ、1つずつやっていきたいと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

この中で、厚生文教委員会所管、教育委員会の欄があり、そこをもとにアンダーライン、特に変わっているようなところから進めていきたいと思います。

まず、24ページをごらんください。

24ページのところでは、目標がございます、アンダーラインが引いてございますが、この辺がちよっと変わってきたところですが、特段皆さんからないですか。

○田口委員 この数字の根拠は、何を根拠にこの数字をあらわしとんですか。

○高橋生涯学習課長 この数字を出すのに、実績をもとに決めさせていただいております。

○田口委員 課長、教育委員会に限らず、根拠もないのに数字を出しとるわけですよ。これに給食の残滓があるかないか知らんけど、あれにしても、最終目標がゼロにならないんですよ。私はゼロじゃろうと、以前話をしたことあるんですけど。例えば、研修会へ参加する人の割合、最終的にはいつの時代か知らんけど、100%でしょ。ただ、難しいのは、私もPTAを長いことお世話させてもらっていましたが、来る人は100%来るわけです、同じ人が。来ない人は、もう一回もこないです。もうそういう話もあったりするから、難しいでしょうが、その辺も含めてやっぱり努力目標だから、目標値というのはやっぱり上げるべきですよ。

最近よく、ちょっと事例が変わりますが、オリンピックに参加するのが目的じゃあないと、メダルをとるのが目的という種目が今ふえていますが、昔はそうじゃなかったです。参加するのが



目的だと。私らもインターハイに行くのが目的だった。1遍行くと2遍目には、今度は入賞するのが目的だというふうに、やっぱり目標値というのは高ければ高いほど担当者が燃えていけるような数値にするべきだと思いますが、その辺の見解はいかがですか。

○高橋生涯学習課長 委員のおっしゃることは、非常によくわかります。わかりますし、クリアしていくたびに高い目標を目指すというのは、もちろんのことだというふうに思っております。そういうものが実現できる環境のもとで実施も考えていきたいというふうに思います。

○掛谷委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次は、26ページ、幼児教育ですか、目標値のところです。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次は、28ページ、小・中学校教育の充実のところ、下線部分について何かございましたら、どうぞ。

○星野委員 先ほど田口委員も目標値のことを言われたが、目標値の義務教育9年間で児童・生徒を育成する意識を持つ教員の割合で、小中一貫教育基本計画では、31年度までに全校実施される予定になっていると思います。実施後数年たつのに、最終年度の34年度目標値が90%というのは、ちょっと低い、もうちょっと高い目標値に設定したほうがいいんじゃないでしょうか。

○眞野小中一貫教育推進課長 検討します。

○田口委員 私も星野委員の意見に賛成です、賛同します。といいますのも、課長、おととい、この厚生文教委員会で、地区担当職員の話が出た。半分はみずから望んで参加しますと、残り半分嫌々ですよ。私の出した結論は、市役所に勤務して市民のために何か役に立ちたい職員というのは、ほとんどいないと。給料を得るためだけの職場としての市役所であるという人が多過ぎるという結論を、私は勝手に出した。これもそうですよ。これ100%にならないということは、私は児童・生徒を育成する意識を持つだなんて、とんでもない話だと。私は、生活のために、給料を得るためだけに先生になったんだから、そんなことを押しつけがましいこと言わんとつてくれえという先生がおるということになるんですけど、市役所の職員の話と、学校の先生の話になる、私は別だと思う。最低限全ての先生が、子供たちのために私たちは頑張りたいというふうに思いたいじゃないですか。ぜひこれはもう最終原稿のときには、希望的観測でも何でもいいから100%に星野委員、してほしいですよ。そういう先生になっていただけると。もう今でも100、84がやっぱり100であってほしいと思いますが、私は。

○川口教育部長 目標設定のあり方ですが、これは全般にかかわる問題かと思えます。私どもとしては、やはり例えば先ほどの問題であれば、人事異動の問題もあります。アンケートのとり時期の問題もあります。現実の問題として、100%に至らないこともあるかもしれません。私どもとしては、やはり掲げた数字に責任を持って、それは確実に実現するという考え方でこの目標

を出しておりますので、この数字になっておりますけれども、なお目標の立て方については、全体にかかわる問題として、おっしゃるようなやり方もあろうかとも思いますので、それはこれを担当します総合政策部と相談の上、決めていきたいというふうに思います。

**○田口委員** いやいや部長、おっしゃることはわかるが、最低限学校の先生ですから、市役所の職員じゃないですから、やっぱりそういうふうにあってほしいと、欲しいから、100%実現しないということもあり得るかもわかりませんよ、いろいろ先生の中でもおられるし、不登校になられる先生もいるわけですから。100%が無理なら、やっぱり教育長、99%という数字を、私はとりあえず表に出してほしいと、そういうのをお願いしときます、これ、お願いします。答弁はいいです。

**○橋本委員** 学校教育のほうの分野で、私はいつもお願いをしておるが、確かに学力向上だけが教育じゃないという理論もよくわかりますが、ならば学校教育で授業についていけない子供を発生させるという、これをぜひとも避けていただきたい。つまり進むスピードをゆっくりにすれば、そういう子供たちの出現率は下がってきますので、もう学力向上だけじゃないんだと、よりみんながわかる授業を中心に。というのが、学校に行ってもわからん授業を聞きようれえというほど、これは苦痛ですよ。学校行きたくなくなるわけですよ、そうすると。そしたら、行ってもふらふら徘徊するとか、そんな子供たちができたら困るわけで、それをできないように何とか方法をしてくださいということと言ってもなかなかそれが実現せんですが、そういうことを特にその対策をするというか、落ちこぼれの生徒をつくらないということを全面に私は教育委員会は考えていただきたいと思います。もう時と場合によっては、教える難易度を下げてでも構わないじゃないですか、別に学力向上が目的じゃあないんだったらというふうに私は思います。どうでしょうか。

**○杉浦教育長** 申しわけありません。委員のその意見には賛同しかねます。現状、日本の学校教育全体がやはりできない子に合わせるということで、本来伸びる可能性のある子供の可能性を奪っているというふうに、私は考えています。その中で、ぜひちょっと一度西鶴小学校の6年生、年度残り少ないですが、ぜひ見ていただきたいと。ここは、クラス7人です。西鶴セブンという名称で、結束がかたい小学校です。ここは、今新しい授業の手法で、今風に言うとアクティブ・ラーニングの一端ですが、学び合いという形で、要するにできる子ができない子を面倒見つつ、クラス全体でレベルアップを図っているという手法です。これが今大変効果を上げていて、これは実はもう他県からも視察が来るぐらいの成果を上げている学び合いという学習方法です。

これをやはりせつかく少人数教育が図らずも特徴になっている備前市ですから、そういった少人数教育のよさを生かして、そういった手法で、ついていけない子も一人でも多く救い上げていくといったことも考えられるのではないかなというふうに思います。

**○橋本委員** そういう方法でも何でもいいんです。とにかく学校へ行って、わからん授業を聞きようれえというのは、本当にその生徒にとって苦痛ですよ。だから、そういう子供たちが発生す

るのを防ぐ、あるいは発生しつつあるのであれば、特別な教育、これは時間をかけたら、教育長、そういう子も授業がわかるようになるんです。ところが、今の学校教育ではそのかける時間が余りないです。それと余りさせようとしなない、強引な形ではさせられないということになるんかもわかりませんが。昔、私たちの友達に聞けば、中学校なんかでも点数が悪い子を夏休みに補習に出てこいということで出ていかされよったんです。ところが、今そんなことしませんよね。そんなことしたら、できる子とできん子の差別化というようなことで、なかなか難しい。ところが、授業がわからん子に多く時間をかけて教えるというのは、私は必要だろうと思う。だから、わかる子がわからない子に教えるというのも、それは一つの方法です。とにかくどんな方法でもいいから、落ちこぼれをつくらないという教育方針に、私はなっていたきたいと思います。

○杉浦教育長 先ほど申し上げた取り組み以外にも、本来一つのクラスの例えば算数の授業をあえて少人数、2クラスというか、2組に分けて丁寧に教えるといった試みも始めておりますので、もう委員御指摘の趣旨にかなうようにしっかりと格差が出ないように努めていきたいというふうに思います。

○掛谷委員長 ここはいいでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

30ページ、子育て不安の解消のところ。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

32ページ、高校教育における柔軟な学びの場の提供のところ。

○田口委員 志願倍率は別としても、入学時の生徒が卒業する割合、現状値が82%で、32年、34年と65%、65%と下がるというのが、私は正直言うて理解できない。どういう計算をしたらこういうことが成り立つのか。地域と学校の中の努力とやっぱり地域の支えで、今が82%なら、34年には9割行かんでも、10人に9人は卒業できんにしても、85%ぐらい、今よりはやっぱりちょっと上げたいというように普通思うじゃないですか。何で下がるんですか。

○岡部学校教育課長 28年度の子供が82%だったわけですが、それ以外の年度は全て50%後半から60%ぐらいの卒業率だったわけです。たまたま28年度が非常に高かったということで、そこから求めている数字です。検討いたします。

○田口委員 いやいや、私も議長させてもらっているときに、卒業式、入学式を2回ずつ行かせていただいて、そういう話もお聞きしているが、何でと思ったときもあります。やっぱり目標値ですから、先生、現実をやっぱり余り見過ぎずに、例えば今定時制だけど、そらあもうこれからは通信教育でしょうというふうな話もこの後させてもらおうか思うようなんですけど、そういういろいろなことを変えることによって、入った生徒がやっぱり卒業してほしいと、一遍検討してみてください。

○岡部学校教育課長 検討いたします。

○掛谷委員長 ほかによろしいですね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

34ページ、生涯学習の機会充実で、目標のところと取り組みの⑤の奨学金制度の拡充のところアンダーラインが引いてあります。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

36ページ、公民館・図書館機能の充実、そこも目標のところだけです。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

42ページ、歴史文化の活用と伝統文化の継承、目標のところ。

○立川委員 芸術・文化に接する機会があった市民の割合、40%から50、52%の目標とするんだと。この取り組み姿勢、この前文化庁がちょっとまた改正でお話が出ていたと思うが、地域の文化財というのをどの程度捉えておられるのか疑問があるが、いかがですか。有形、無形を問わず、そんなリストはありますか。

○高橋生涯学習課長 市が指定している文化財、もちろんございますが、それ以外にも地区で大事にされている施設とか、場所とかということもあろうかと思えます。結局文化庁が進めているのも、そのような施設を今後まちづくりにどう生かしていくかという視点で動かれているというふうな認識でおりますので、その辺は地域の公民館の施設等も含めてその啓発を図っていきたいというふうには考えております。

○立川委員 文化庁の文化財保護法との関係は、地域に活用しようということだと思うが、私がお聞きしたかったのは、各地域、有形、無形を問わず文化財と言われて地域で大事にしているものがあると思うが、その辺のリストはお持ちでしょうかということでお尋ねしたんです。

○高橋生涯学習課長 備前市の文化財ということでパンフレットに取りまとめております。

○立川委員 その中で、活動の拠点がなかなかなくて、それと高齢化ということもあるが、後継者の扱い。その活動の拠点ということで、各地域の公民館をお使いになられたり、自治公民館を使われたりしているが、その施設の保全状況、そっちのほうは順調に行かれていますか。

○高橋生涯学習課長 もちろんその所有者が、例えばの例で申し上げますが、池田侯のお墓ですと、所有者は池田さんのままです。そこが荒れてお守りをする人がいないという状況も生まれてきているのは事実でございます。

○立川委員 ですから、そういったことの仲介といえは語弊がありますが、その辺のコンセンサスをとっていただくのもそちらの仕事になると思うので、生涯教育のほうですね。

それと、もう一点お願いしたいのは、いろんな、私ところもお神楽があったり、その保管に困るんですよね。さっき言った施設のほうは、どんどん変わってきたり、補助しますよと言っただいでも、公民館の補助は5分の2でしたっけ、5分の1でしたっけ、何か少ないし、私ところの中央公民館に、三石の公民館にしても、施設が壊れても直してくれない、夏暑いのにうちわを持ってやっているという状況をぜひとも改善の方向にさせていただかないと、市民の皆さん来られないので、その辺しっかり目を光らせて、予算が要るなら上げられたらどうですかというふう

に思うが、いかがでしょう、課長。

○高橋生涯学習課長 そのような御報告を受けて、タイムラグは当然出ますが、それには丁寧に予算上げさせていただきたいと思っております。

○立川委員 ぜひそれをお願いしときます。夏にクーラーが壊れて冬に直ってもしょうがないんですという現地の実情をもう少し細かに聞いていただけたらと思います。これはお願いです、よろしくをお願いします。

○掛谷委員長 よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

第2次の備前市総合計画についての教育関係は、以上でございます。

ここで休憩に入ります。

午前10時43分 休憩

午前10時55分 再開

○掛谷委員長 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

○田口委員 学校に行きたくても登校ができない子供、小学校と中学校で何人ぐらいおられますか。

○岡部学校教育課長 今年度1学期から引き続き学校に来られていない子供が、小学校で2人、中学校で15人となっております。

○田口委員 私、余り不登校という言葉は使いたくないですが、もう行きたくない子供はほとんどいないと思う。それが何かの理由で行きたくなくなるということでしょうか、小学校の2人は別にしても、中学校の場合でそれぞれ皆さん理由は違うのでしょうか、そういうのは把握されていますか、教育委員会のほうでは。

○岡部学校教育課長 一応各学校から毎月長期欠席の報告はいただいておりますので、状況は把握をしております。

○田口委員 次、話が変わりますが、ここへ共同調理場民間委託調査結果の資料、今、テレビをにぎわしている神奈川県とか、委託の給食の話もあるわけで、もう私個人的には絶対委託に出させないでほしいと思います。話が直結しない。例えば、教育委員会なら教育委員会が業者のせいにするわけですよね。委託業者がどうこう、いやあちはこうこうこういう指導をしているんですけどとかという話になるから、私は絶対やめてほしいと思います。お金の問題だけでなく、もうやっぱり自前で管理して賄っていただきたいと、教育長、と思いますが、お考えはいかがでしょう。

○杉浦教育長 やはり委託に出していい分野とそうでない分野というのがはっきりと分かれると思います。給食に関しては、やはり直営というか、市が責任を持ってやるべきだというふうに考えます。

○田口委員 それぞれの担当の教育委員会の職員、教育長含めて、年に何回ぐらい給食の試食は

されていますか。

○杉浦教育長 私は、学校訪問、その他含めてやはり4回ぐらいですかね。

○川口教育部長 私も学校訪問で教育長と同行していく中で、給食もいつもいただくことになるので、4回程度でした、今年度は。

○田口委員 いかがですか、給食の感想は。

○川口教育部長 おいしいです。

○田口委員 わかりました。

とりあえず以上です。

○掛谷委員長 お手元に委託調査結果がございまして、ちょっと説明をいただければと思います。

○大岩教育総務課長 お手元の資料のA4判、1枚物の共同調理場民間委託調査結果をごらんください。

これは、平成27年12月に民間委託した美作給食センターと業者に聞き取り調査を行いました。民間委託時のメリット、デメリット、コスト面について整理したものでございます。美作市からは、職員削減のために民間委託をしたそうですが、実際にはコスト削減は余り見込めないということでございました。業者からの聞き取りは、収益性のある事業じゃないこと、あるいは献立は栄養教諭が行い、調理作業の委託のみということで、施設の維持管理費は市持ちであること、あと、1,000食を超えると食中毒や異物混入時の給食廃棄のリスクが大きいなどの回答をいただいております。また、せんだって瀬戸内市が民間委託をしたと思いますが、職員の採用がなかなかできないということで、民間委託されているということでございます。瀬戸内市も、コスト面はそんなに変わらないということでお聞きしとります。

それと、本市の給食の調理については、生徒数の減少、学校の統廃合などにより、調理数に余剰が発生しておりますので、まずは安全・安心な給食の提供、食育を推進しながら施設の配送先の適正規模の運営に実施していくような方向で考えております。

○掛谷委員長 お聞きになって何かあればどうぞ。

○橋本委員 今回の課長が説明をされた中で、瀬戸内市がこのたび民間委託をするということで、その理由に調理員を募集してもなかなか応募がないということ聞いたが、我が備前市の場合はそういう状況じゃあない、つまり募集をかけたなら幾らでも応募があるという状況でしょうか、今。

○大岩教育総務課長 8月になってから日生の共調で1人募集をかけていますが、1人集まっていない状況でございます。今、ハローワークにまだ募集広告を出しているところでございます。

○橋本委員 調理員の待遇が瀬戸内市も備前市もそうでしょうが、そんなに大差はないと思うが、余りよくないから募集をかけても来ないんじゃないですか。そういうことはないのでしょうか。

○大岩教育総務課長 いろいろな面があるかとは思いますが、今回の募集は週30時間未満のパート採用だったもので、例えば税金の103万円の壁の問題だとか、扶養の関係でなかなか申し込める方が難しいというのも、一応はあるかなとは考えております。

○橋本委員 瀬戸内市の場合は、募集をかけてもなかなか来ないから万やむを得ず今の民間委託にされたのかどうかわかりませんが、備前市の場合も将来的には、もしそういう状況になったら、したくなくてもやらなきゃならん現実というのは出てくる可能性はありと見とってよろしいでしょうか。

○大岩教育総務課長 今の段階では、民間委託は考えておりません。調理場につくるのに余剰がありますので、その配分でうまくいくのではないかなとは考えております。

○橋本委員 備前市の場合、ちょっと変則的な格好で、例えば片上小学校が自校方式ということで、あそこだけで給食をつくっていますよね。あれは1日に何食ぐらいつくるのか。片上小学校の児童及び職員の分ということになると、幾らぐらいになっているのか。

○大岩教育総務課長 28年5月1日現在になりますが、135食でございます。

○橋本委員 何人の調理員でつくっておるかかわからんですが、私は基本的にはこの片上小だけでその135食をつくるというと、相当なロスというか、余剰があるんじゃないか。これらを今、伊里の共同調理場、あそこで作ったものを配送という格好には成り得ないですか。そういうのは、問題視は教育委員会のほうではされてないですか。

○大岩教育総務課長 そういったことも含めてPTAとかに説明会とかも必要になってきますので、そういったことは将来的には考えております。

○掛谷委員長 よろしいですか。

○田口委員 今、片上小学校の給食の話が出たが、そういやあ伊里小学校や西鶴山小学校も自校方式で一緒じゃ、校舎の隣にあるんじゃないから。給食センターという名前がついとるだけじゃ。何が違うんですか。

○大岩教育総務課長 西鶴山共同調理場については、西鶴山と香登小学校に配達していると思いますが、あその地区はやはり距離的なものがございまして、30分以内に入るようなところでなるべく温かい物をということで、そういった感じで西鶴山は動いていると考えております。ですが、うちは今4共同調理場と片上の自校調理場で5つ施設がありますので、生徒数が減っていく中では、それらの配送先も考えていく必要があるんじゃないかなとは考えております。

○田口委員 いやいや、私が言よんのは、例えば伊里小学校の横にひつついとるが、給食センターが。自校方式と一緒にと言よん。何にも変わりゃあへんがな。ただ、数をぎょうさんつくりよるだけじゃがな。だから、一々片上小学校だけつくりよんじゃないからな、それはもうそこだけ特別にするなど言うたってなあ、ほんなら伊里小の給食センターもどっかへ離せと、極端に言うたらそういう話になるが。だから、もう課長そういうことに頭使うな、要らんことに頭使わんとじゃなあ、もうちょっと現実的なことに頭使うてえという意見じゃ、わしの。

○立川委員 給食のお話が出たので大変失礼かと思いますが、給食をつくられた調理場ごとに検査はされとると思うが、何名ぐらいされているんでしょうか。

○大岩教育総務課長 済みません、私ちょっと知識不足でわからないですが、校長先生はされております。あと調理場の栄養教諭がされています。

○立川委員 必ず検食簿というのをつけておられると思いますので、そのチェックはされておられるんですか。今のお話だと、多分そのまま何も見られていないという状況のような気がするが、検食簿。教育部長は、おいしいですの一言で終わられましたが、委員会のほうでチェックされていますか。

○大岩教育総務課長 私は、4月からですけど、それは見ておりませんので、一度現場に向かいまして見させていただこうかなと思います。

○立川委員 ルール化されたらどうですか。よそは学校内で誰々、おっしゃったように校長もしくは教頭、いないときは交代で、検食簿をつけて、月に1回教育委員会のほうへ持っていったとか、教育委員会の方がチェックしてとか。というのが、緊張感の問題で、異物混入がありましたとか、正直に書いているところもあります。検食簿というのは、非常にどちらも緊張感があつていいので、そのチェックだけはシステムをつくっていただけたらと思いますが、いかがですか。

○大岩教育総務課長 異物混入などのマニュアルは昨年度でしたか、つくっておりますので、そういうことも含めて検食簿の教育委員会が見るシステムのほうも考えてまいりたいと思います。

○西上委員 立川委員の関連で、学校給食の衛生管理マニュアルとか危機管理マニュアルの策定はされとるんですか。

○大岩教育総務課長 はい、しております。異物混入時の対応マニュアルとアレルギー食のマニュアルをつくっております。

○西上委員 危機管理は、マニュアル。

○大岩教育総務課長 はい、それもつくっております。危機管理といいますが、異物混入時の対応マニュアルが危機管理と。

○西上委員 ほかはないですか。

○大岩教育総務課長 そこまでは書いてなかったと思います。

○西上委員 今、言われた中毒とか、O157とかは。

○大岩教育総務課長 そのマニュアルはなかったと、済みません。マニュアルは後ほど調べさせていただきたいと思います。

○橋本委員 今、マスコミで非常に問題になっております給食を残す率、これは今話題になつたのが普通民間委託していないところでは大体7%前後と、それがあつるところでは二十何%で、3倍強も残す率になっておると。我が備前市は、これはどれぐらいが大体数値なんですか、把握されとりますか、何%ぐらいを残しているか。



○大岩教育総務課長 データはちょっと古いですが、27年11月のデータになりますが、小学校の主食、麺とかパンとか御飯になります、これが0.7%残っていると。副食1.0、牛乳0.6、かなり食べていただいているとは思いますが。

中学校が、主食2.6%、副食3.9%、牛乳3.7%となっております。

○田口委員 残滓の話が出たが、細かいことを言うと、今給食、牛乳がその何%残っているとかという話ですけど、かつては私が関係しとったときは、ミルメーク入れたらみんな飲んでくれるけど、ミルメークが6円とか7円するから、給食代に占める比率というのは結構毎日だと上がるんですよという細かい話もしたことあるが、最近はミルメークを入れてとかという話はないですか。

○大岩教育総務課長 ちょっと献立そこまで見てないもので、ミルメークが毎日出ているかどうか分からないんですけど。

○田口委員 いや、まあまあ課長、もう細かい話だから、把握できてのうてもええんじゃないけど、実際教育委員会というたら担当課なので、例えばあの牛乳が40円じゃ、何円じゃと言やあ、安いでしょうと言うて、学校給食だから安いんですよと言うて、私は説明を受けとったけど、牛乳を飲まない私でも、飲めるぐらい薄いんですよ。だから、安い。そういうことを含めて、私、学校給食の話になったら煮干しが何円ととかという細かい話もよう聞いていましたが、担当課長はやっぱりそういう細かい突っ込んだところまで、私は知っと思って損じゃないと思うんですよ。そういうことで、いろいろ知っていると、おいしい、おいしくないとか、残滓がふえたとかという話のときに、やっぱり栄養士と話をするのに、やっぱり細かい話も知っていないと、話ができませんじゃないですか。

それとか、給食の食材を入れる業者が市場までじかに仕入れに行つて納める業者と、どこそこの店に電話一本で丸投げして手数料だけ取る業者もおるじゃないですか。そういう話とか、やっぱり細かい話もここで報告してくださいじゃなくて、ぜひ課長として知っと思ってください。よろしく願います。願います、これは。

○立川委員 備前焼条例ができてから備前焼の食器、どの程度使われとるんですかという比較がありますか。

○大岩教育総務課長 比較表のほうは、その使った回数とかはちょっと調査の資料は、今は持ち合わせておりません。今、片上小学校の家庭科教室と。

○立川委員 倉庫にあるわけ。

○大岩教育総務課長 いや、倉庫にはないと思いますが、そこに保管はしていますが、それが月に何回調理で使われているかというのは把握しておりませんので、後ほど調べさせていただきます。また、資料提供させていただきます。

○立川委員 せっかく条例で決まったんですから、そのぐらいの関心は、ぜひとも、使えるような指導とチェックぐらいはお願いしたいと思います。よろしく願います。

○田口委員 備前焼の食器の話が出たので、重たいからだめじゃというて、陶芸センターで作り直してもらったという話は聞きました、ずうっとね。日生の給食センターにもあるらしいですが、やめてほしいと、重た過ぎると、不衛生という話を聞いていますし、私は絶対不衛生だと思います。自分が何十年と民宿で備前焼の器を使ってきて、もうぜひやめてください、学校給食では。

○立川委員 ですから、今お話が出たように、現場では使いにくい、それと衛生的にもちょっと問題があるんじゃないかというようなこともひっくるめて、ひとつ問題を直視して、御検討いただくのも委員会の仕事と思うので、よろしくお願ひしたいと思います。

○田口委員 よろしくお願ひします。

○掛谷委員長 わかりました。

この件でよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

この件はこれで終わります。

○西上委員 給食費の補助がスタートされましたら、今後どのような検証をされるのか。

○大岩教育総務課長 ここで予算を通していただきましたら、4月1日にさかのぼり、補助申請を学校経由でしていただき、1月期はもう過ぎているので、一応学期ごとの翌月に支払うということしておりますので、1学期、2月期分を、12月で2学期が終わりますので、1月に振り込んで3月分を4月に振り込むような形で考えております。

○西上委員 わかりました。職員や生徒、保護者などのアンケートなんかは考えられていませんか、調査というか、どういうふうにするか。

○大岩教育総務課長 一般的な意見も学校の先生方とか、この間の市役所全体のアンケート調査の中で、個別に給食費の無償化はありがたいという考えもございますし、何もそこまでという考えも二面ありますので、どちらとも言えないような感じでは考えておりますけれども、考え方は。

○西上委員 はい、わかりました。

現在、新聞によると、60の自治体ぐらいで無償化がやられとんですが、よその自治体の調査なんかもされとると思うが、その辺教育委員会はどう思われていますか。

○大岩教育総務課長 相生市とかの新聞で、あのときも委員会か一般質問で質問があったと思いますが、一時的には人口がふえたとかというのもありましたが、私どもは子育ての一環の補助として考えておりますので、また貧困対策とは別のもと考えていただきたいというような感じでは考えております。

岡山県の中では、うちがもし第2子半額、第3子全額になりましたら、県下でももう3町村ぐらいしか実施していない段階なので、それはもう牛乳の補助とか、20円の補助ですか、もう金額的にはかなり小さいもので、もし採用されましたら、県下では一番の制度だと考えておりま

す、先行実施ということで。

○西上委員 ありがとうございます。

それから、先ほど道德の話が、僕が子供のころ道德では、誰に対しても差別するなく偏見なく公正な態度で接しなければいけませんと習ったんですけれども、今回の給食制度では、無償化の人もこれは、半額補助の人もおれば、全然補助されない人もおるんですが、これの道德観的などっから言えば、どう解釈すればよろしいでしょうか。

○杉浦教育長 一般質問でもお答えしたかと思いますが、目標はあくまでそういう完全無償化なわけです。その経過措置として、どういった段階を踏むかということなので、経過措置だけを見て道德的にどうかとかという議論は、私はちょっと御勘弁いただきたい。いずれ国の方向性も無償化に向かっていくということでもありますから、あくまで最終目標をもって平等というか、そういう道德的な納得性というのも評価していただきたいなというふうに思います。

○西上委員 いやいや、道德教育をつかさどる教育長の話が、それではもっと私が頭の中で納得できんのんですけれども、どうでしょうかね。私は、子供、小学6年生の担任の先生が、こりゃあええと思うたら突っ走れよという道德教育を受けたんですけれども、間違いじゃねえと思うんです。今でもそれ実行しよんですけれども、どうでしょうか。

○杉浦教育長 やはりその道德観だけで全てが解決すれば苦労はしないので、田口委員からも御指摘があったとおり、やはり全体の財政状況であるとか、さまざまなことを加味して政策というのは決まっていくわけで、ですから何度も申し上げますが、最終目標はもう完全無償化に変わりはないんですよ。だから、そこで自分のスタンスがぶれているとも思いませんし、あくまでその過程だけを取り上げるのはやめていただきたいということです。

○西上委員 中学1年生の息子がおるんですけれども、息子に今回のこの事業はどう思うんならと言ったら、やっぱり息子も差別があっちゃあいけんなあ、お金がねえんなら全部ゼロにしゃあええがなと言う、うちの子供はそういうふうに言うたんですけれども、そりゃあめえ正しいなと言うたんですけど、どう思いますか。

○杉浦教育長 ちょっとこういう公の場でそういう御質問にはお答えしかねます。

○掛谷委員長 いいですか。

○西上委員 わかりました。

○田口委員 給食の補助の話が出たが、長崎県の香焼町は、もう何十年も前から給食費は無料です。そこで育った子供は、私と話をしとんのも、もう40歳を過ぎていますが、日本全国学校というのは給食費はただか思よった、自分がただだから。だから、そうじゃないんですよという、その辺の仕組みも教育の一環としてやっぱり教えてあげとってほしいなあというふうに思うことを要望しときます。よろしくをお願いします。

○掛谷委員長 この件で、もうよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

次の所管事務調査があれば、どうぞ。

○田口委員 さっきちょろっと言うたんですけど、教育長。片上高校、通信制教育と一緒に取り入れたらええんじゃないかというふうにも思います。というのが、先ほどの話の中でも、28年はたまたま82%の方が入学した生徒が卒業しましたと言うて、普通はもう5割だったり6割だったり、その程度ですよという話の中で、いろいろ多様化はしている子供たちが多くて、例えば名護にある通信教育の生徒の中に、私正式名称は知らないですが、自転車にブレーキのないアクロバットみたいなことをする競技があるじゃないですか。その世界的な少年がいて、その子は世界を転戦するから、普通の高校じゃあとても単位が取れないということで、その学校へ籍を置いているらしいんですけど。そういうことを含めて、子供たちがそういう多様化していく中で、やっぱりどういう教育が与えられるのかと、通信制でということ、研究して、ぜひともまちの活性化とやっぱりそういう多様化する子供たちの受け入れのためにも、通信制教育を、じゃあどこでそれをするんならという話にもなるけど、先ほども言うてましたけど、伊里中学校1校丸々あいているじゃないですか。先生は県で、設置は備前市でという特殊な学校ではありますけど、ぜひとももうその教育委員会会議の中で、総合教育会議の中でやっぱり市長も含めてどういう方向に行かすかということ、私はぜひとも研究、検討する中で、通信制も検討していただきたいと思うが、いかがでしょうか。

○杉浦教育長 具体的にもう検討することにしております。来月かな、市長と一緒に実は九州のある通信制の中・高を視察に行くことしております。あわせて、通信制というのは当然年数回スクーリングという場があって、スクーリングのために備前市へ来てくれる子供たちが、例えば日生の豊かな海であるとか、八塔寺の山、山の自然であるとか、そういったところでスクーリングをやっていくと。何か校舎の中だけではなくて、備前市全体をそういうスクーリングのフィールドにするという発想はないかなあというふうにもいろいろ今考えているところで、ただいかにせん通信制のニーズというのはどこまであるのかといったことも、これから調べないといけませんし、さまざまな可能性をこれから追求していきたいと考えているところです。

○田口委員 よろしくをお願いします。

○杉浦教育長 はい。

○掛谷委員長 ほかにあれば、どうぞ。

○星野委員 教育用タブレットについて、オフラインでも使えるデジタルドリルのインストールは、もう終わったのでしょうか。

○大岩教育総務課長 はい、終わっております。

○星野委員 タブレットの持ち帰り学習の現状を教えてください。

○大岩教育総務課長 この夏休みから持ち帰りをさせていただいております。今、検証を進めていますが、例えば持ち帰った学校が西鶴山小学校6年生とか、東鶴山小学校5、6年生とか、三石小学校5年生、日生東小学校6年生、それから三石中学校全学年、吉永中学校全学年と、夏休み

に持って帰っていただいておりますので、今そういったところの検証を行っているところでございます。ただ、先生方からは、心配していたよりは運用上の課題がなかったとか、土日などでも試してみたいというようなお声はいただいております。

○星野委員 全クラスに浸透してっていないというのは、どういう課題があるんですか。

○掛谷委員長 特定の人、全員じゃないという、対象はそうなんですよ、でも。

○星野委員 対象は、4年からみんな持っています。

○杉浦教育長 ちょっとこれはタブレットに対する使い方の認識の問題もあると思いますが、私、ICT全般がこれは全てが稼働しなければいかんという考え方はとっていません。やはりそれを使うことで子供の教育効果が最大に上がるという使い方をしていただければいいので、浸透してないのではなく、それぞれ先生方がベストだと思う方法でタブレットを生かしていただいているんじゃないかなあというふうに理解をしています。ただ、さらにやはりせっかく配ったものをきちんと生かしていただく工夫というのは、よりしていただきたいなと考えています。

○掛谷委員長 次に、何かあればどうぞ。

○山本副委員長 サタスタびぜんですが、資料要求しときゃあよかったんですけど、夏休みもありましたから、8月末までの各中学校別の受講者数とか、わかれば教えていただきたい。また、前年に対して減少傾向か、増加しているのか。

○大岩教育総務課長 8月10日現在で、備前中の申込者数が110人中20人で18%、伊里中が42人中27人で64%、三石中が17人中10人で59%、日生中が75人中53人で71%、吉永中が30人中9人で30%、合計で274人中119名ということで43%の受講率となっております。前年は、7月19日現在で49%でしたので、6%ぐらい若干下がっている状況でございます。今の時点では、そのようになっております。

○山本副委員長 6%程度ですけど、前年より下がった理由はどう思われますか。

○大岩教育総務課長 主には、備前中の生徒が下がっているわけですが、学校行事と重なったというもお聞きしとりますので、その辺は今調査の段階で、さらに勧誘のほう進めているところでございます。

○掛谷委員長 ほかに、どうでしょうか、皆さん方。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ないようでございます。

以上で所管事務調査を終わります。

\*\*\*\*\* 閉会中の委員派遣について \*\*\*\*\*

閉会中の委員派遣についてお諮りをしたいと思います。

当委員会の行政視察についてですが、11月8日水曜日、和光市において、地域包括ケアシステムについてを、また9日木曜日、草津市において、教育情報化・ICT化についての調査研究するため、議長に対し委員派遣を要求していきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

それでは、委員派遣の手續については、私、委員長に御一任願いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

では、そのようにさせていただきますので、よろしく願いいたします。

以上をもちまして厚生文教委員会を閉会します。

皆さん、御苦労さまでした。

**午前11時35分 閉会**